

年度末にあたり、本年度の振り返りと来年度の目標について書かせていただきます。私事ですが、おかげさまで昨年秋に日本乳癌学会乳腺専門医試験に合格し、2018年1月より北播磨地域で唯一の常勤の専門医となりました。ますます地域のみなさんの乳房の健康を守るために努めたいと身の引き締まる思いです。今後とも安心してご相談いただけるように精進してまいります。

1) 専門外来について

①遺伝相談外来 2014年5月より毎週火曜日

アンジェリーナジョリーさんの勇気ある決断はみなさんもよくご存じのことでしょう。遺伝性乳がん、というと大変珍しい病気のように思われるかもしれませんが、乳がんは遺伝性疾患が全体の5～10%と決してまれではありません。遺伝性乳がんのうち、最もよく知られ最も重要なものは、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)です。HBOCのリスクの高い方の特徴はいくつかあり、当院の乳がん患者さんであてはまる方は約30%にのぼりました。もちろん必ずしもこれらの方々が責任遺伝子であるBRCA1/2に異常があるというわけではありません。これらの遺伝子に異常があると乳がんを若年で発症する可能性があります。一方で若年発症の方も早期発見早期治療で予後は一般の乳がんと変わりません。ご自分のリスクを正しく知っていただき、自己検診や乳がん検診の大切さ、を知っていただきたいと思っています。また大切なご家族にもかかわりのあることですので、ご本人さまのみでなく、みなさんの問題として考えていただくきっかけになればと思っています。遺伝相談外来は全国どこでも自費診療ですが、当院は公立病院であり、地元のみなさんに気軽に来ていただけるように最低の診療費で設定させていただいております。BRCA遺伝子検査も可能です。必要な場合、京都大学や兵庫医科大学の遺伝診療部にご紹介もしております。

②セカンドオピニオン外来 2016年2月より毎週水曜日

当院は開設以来ずっと日本乳癌学会の診療ガイドラインに則った標準治療を行ってきました。また、日本乳癌学会関連施設として、昭和大学病院乳腺外科(中村清吾教授)にご指導いただき、地方にあつて最先端の医療をアットホームな雰囲気提供しております。新薬が発売となれば適応患者さんにいち早く

お知らせし、処方始めております。例えば昨年 12 月 15 日市販のパルボシクリブの処方を 1 月より開始しました。そして、昭和大学を中心とした専門医のつながりで新薬の副作用等についても情報を交換し、患者さんに不安少なく治療を受けていただけるように心がけております。

乳がんに限らず、診療ガイドラインに則った標準治療が最も効果が期待でき、かつ安全に行うことができるため、患者さんの予後がよくなります。しかし、乳腺診療を専門にする医師が全国的に不足しており、標準治療が困難な場合も少なくありません。標準治療からかけ離れた治療は、危険であり、予後不良につながり、患者さんへの不利益が生じます。こうした背景から、セカンドオピニオン外来を開設しました。お気軽にご相談ください。

2) 乳腺ドックについて 2017 年 10 月より毎週木曜日

2017 年 10 月より開始いたしました。詳しくは「乳腺ドックへようこそ」をご参照ください。日本はがん検診受診率の低い国であり、検診率の向上についての取り組みがずっとなされてきました。昨今、高濃度乳腺についての報道があり、検診の質の向上の大切さが改めて見直されています。そうした背景のもと、乳房の健康を心配される方に最上の検診を、との思いから乳腺ドックを始めました。お問い合わせ・ご予約は、当院検診課までお願いいたします。

3) 乳がん検診について

当院は、対策型検診としては西脇市の街ぐるみ検診と協会けんぽの検診、任意型検診としては、人間ドックと乳腺ドックを行っております。「がん検診のあり方に関する検討会中間報告書 ～乳がん検診及び胃がん検診の検診項目等について～ 平成 27 年 9 月」により、対策型乳がん検診での視触診は、「マンモグラフィとセットで行う」、から「マンモグラフィ実施時に合わせてやってもよい」、との扱いになりました。背景には、視触診の技術的な精度管理が困難等が挙げられます。この結果、全国的に視触診をやめた自治体・施設が増えています。

私どもは過去に、町ぐるみ検診のマンモグラフィでは異常所見なく、視触診が発見の契機となった方を経験し、日本乳癌検診学会誌に論文として発表しています。高濃度乳腺の場合、マンモグラフィのみでは乳がんを見落とす可能性があります。また、マンモグラフィは乳房をはさんで撮影するため、はさみに

くい部位に生じた乳がんはマンモグラフィには写りません（欠像といいます）。こうしたことから視触診を省略することで乳がんの見落としの可能性が高まることが懸念されます。対策として自己検診（つまりセルフ視触診ですね）も大切ですが、医療者でも習熟が必要ですから、自己検診はなかなかむづかしく、習慣として根付きにくいものです。当院の乳がん検診では、マンモグラフィに合わせて視触診を従来通り行っていきます。もしも選べるならば、視触診も合わせて行っている施設での検診をお勧めいたします。

3) 恒例の乳がん検診啓蒙行事について

- ①「乳がん検診へ行こう」西脇病院フェスタ 2017年7月
- ②「第3回歩こう会」西脇市マナビータプラザ 2017年10月
- ③「第5回にしわき乳がん市民公開講座」西脇市みらいえ 2017年11月

たくさんの方にご来場いただきました。有難うございました。2018年度にも継続していきます。

4) お知らせ

2018年度の第6回にしわき乳がん市民公開講座（2018年11月24日（土））には、日本対がん協会会長 垣添忠生先生に来ていただけることになりました。垣添先生は、2002年から2007年まで国立がんセンター総長を務められ、現在はがん撲滅のため、がんサバイバーの治療とケアを支えるため、日々精力的に活動されています。兵庫県はがん検診受診率の低い県のひとつです。2017年度の国立がん研究センターでのがんサバイバー研究成果報告会・研修会で先生の熱意溢れるお話を拝聴し、ぜひ地元のみなさんにもお聞きいただきたいと考えました。がん検診と予防について、そして先生が現在なさっている、「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」についてもお話し下さる予定です（がんサバイバークラブ <https://www.gsclub.jp/walk> に先生自ら日々更新されています）。